

平成30年度 地域座談会で寄せられた要望・意見・提案の対応方針等

【かなん沢・中里地域集会施設】 谷戸・谷津・かなん沢・中里自治会 参加者数：18名

No	テーマ	要望・意見・提案の内容	所管課	対応方針等
1	基礎生活圏に相当する自治会の持続について	<p>自治会には課題がたくさんあるが、中でも一番の問題は、自治会役員のなり手がいないということ。 そのような状況になった理由を自分なりに考えた。 ①定年の延長があると思う。 ②共働きの家庭が増えたこともあると思う。 ③核家族化もあると思う。 ④アパートの住民が増えたが、その住民が自治会活動に参加することはほとんどない。 ⑤地域に対する帰属感がだんだん薄れている。</p> <p>自治会は基礎生活圏であると考えているので、それがなくなると個人と町とになってしまう。そうなると町も大変になると思う。そのため、何とか自治会を存続できないかと私は考えている。</p>	総務課	<p>加入率は徐々にではありますが、減少傾向にあります。近隣市町村に比べ高い水準にはありますが、今後、加入促進を進めていく必要性は非常に感じています。特に若い世帯の未加入世帯が目立ってきているように思え、加入にすることにより役員や事業に参加することをデメリットと考え、加入に消極的になる傾向にあります。昨年度から転入者に対してかゆ促進のチラシを配るようしており、今後は広報やホームページ等により災害時の初動時は自治会が中心となることなど、メリットを情報提供を推進し、加入促進を第一に考えてまいります。</p>
2		<p>谷戸はあと10年でなくなるかもしれない。何故なら、高齢者が多く若者が少ない。空き家が増えている。そうなると役員どころではなくなってしまふ。 今年こうだったから来年こうしようというのがない。前年を踏襲しているだけ。勤めている方が平日に開催される自治会長連絡協議会等に出席できない。それなら開催日を土曜の夜等にするなど取り組みを変えていく。 町とのメールでのやりとりができない。また、ちょっとした資料を郵送で送ってくるが、町のホームページに載せておくだけでよいのではないか。世の中はネットに進んでいるが、行政や自治会は変わっていない。そういう面が若い人には魅力がないのかと思う。若い人と高齢者のギャップについても配慮をしなければならぬ。</p>	総務課 政策推進課	<p><総務課> 5月より自治会配達を月1回とし、おしらせ号も月2回から1回に縮小し対応して参ります。自治会の負担軽減に努めてまいります。</p> <p><政策推進課> 町とのメールの送受信に不具合が生じることがあった際には、大変お手数ですが、ご連絡を賜りますよう、お願いいたします。</p>
3		<p>もっと現場の声を聞いてほしい。自治会をやめさせてほしいという話が3件あった。その方は80歳を超えて独居の方ですが、組長が回ってくるのに戦々恐々としているとのことだった。 私も組長をやったが、配布するのが大変。なので配布物を月1回にできないか。 地域では、黙ってゴミを拾ってくれる方や草を引き抜いてくれる方がたくさんいる。治安が守られているのは、自治会のお陰。だから自治会はなくしてはいけないと思う。ですから、できるようにできるようにしていただくように、工夫をお願いしたい。</p>	総務課 政策推進課	<p>5月より自治会配達を月1回とし、おしらせ号も月2回から1回に縮小し対応して参ります。</p>
4	災害対策について	<p>消火器を斡旋するという話があったと思うが、それはどうなっているのか。</p>	安全防災担当室	<p>平成31年1月15日、火災警報器、感震ブレーカーと併せ消火器のあっせんに伴うチラシを作成し、各世帯に配布させていただきました。</p>